

## 残雪期に南会津の名峰にチャレンジ 会津駒ヶ岳

実施日 2015年5月5日(火・祝)～6日(水・祝)  
天候 晴れ  
リーダー 佐藤 政詞  
参加者 島本陳重、石附智江、中村友子、石原勝正、佐藤政詞、石附恵理子 計6名  
費用 クルマ使用

5月5日～6日で会津駒ヶ岳へ。天気が崩れる心配もありましたが、リーダーの“晴れ男パワー”のおかげで両日も快晴で素晴らしい景色を堪能することが出来ました。

1日目は現地集合のため、佐藤号と石原号に分かれ、民宿吉田屋へ向かいました。GWの混雑を心配していましたが、行きも帰りも渋滞することなくスムーズに行って来ることが出来ました。

佐藤さんと島本さんは5日早朝から燧ヶ岳へ登り、本当に登って来たんですか?! というくらい涼しい顔で合流。山頂は360度のパノラマで絶景だったそうです。

合流してから皆で民宿のすぐ近くにある鎮守神社に行き、境内にある国の重要有形民俗文化財に指定されている「檜枝岐の舞台」を見ました。ここは、福島県の重要無形民族文化財「檜枝岐歌舞伎」が開催される場所でした。檜枝岐歌舞伎とは村人がお伊勢参りの際に見た歌舞伎を、村に伝えたのが始まりと言われており、少なくとも270年以上の歴史を有するものだそうです。開催時期 5月12日には少し早かったのですが、郷土文化にも触れることができました。今度この舞台で生の歌舞伎を見に来たいと思いました。

その後、温泉に浸かり、3時頃から宴会開始! そのまま夕食へ。郷土料理のはっとう(※1)お肌に良いというサンショウウオの天婦羅や香ばしい行者ニンニクの天婦羅、蕎麦など盛りだくさんでした。



翌日も朝から快晴でした。登山口から30分くらいで雪道になり、そこからはずっとアイゼンを装着しての登山でした。アイゼン

がしっかりと雪面を噛んでくれるので、



登り易かったです。山頂からは、6月にチャレンジする男体山を眺めることが出来ました。スキー板を担いで登り下りしている人も多く

いましたが、我々は尻滑り!これが意外にも滑る滑る!!石原さんが一番楽しそうでした。

下山後に温泉に浸かり、帰路へ。帰りの車窓から水芭蕉の群生を見!しかし中村さんと私はそれが水芭蕉と認識するまでに時間がかかり(まさかこんな所に...と思い)、ストップをかけられずに通過してしまいました。



行きも帰りも蕎麦屋により、新緑がとっても綺麗で「絵を描きたいくらいだね!描けないけど...(笑)」なんて会話をしながらの、のんびり楽しい山行でした。

☆おまけの一言☆

登る日の朝食の時、ふくらはぎに痒みを感じ、次第に痛みが伴ってきました。まさかこのタイミングで、生まれて初めてブヨに刺されたのです。いつ刺されたのかは全く分からず...



しかし、そんな痛み痒みを気にする間もなく登山開始。下山後にタイトスの下を見るとパンパンに

腫れているではありませんか!疲労で腫れた脚に輪をかけて腫れ上がる傷跡(泣)これも経験の一つと思って受け止めました。(※1)はっとう・・・奥会津の郷土食。

昔、殿様が村人の作ったはっとうを食べ、あまりの美味しさに驚き、「このような贅沢な食べ物は、祝いや祭りの日以外は食べてはならぬ」という法度(はっとう)が出されこの名が付いたと言われているが、はっとうとは古代中国の「ほうとう」(小麦粉で作った製品と言う)からきている。そば粉ともち米粉(昔は入れなかった)を半々入れてこね伸ばし、5cm程度のひし形に切り、ゆであげ、それに炒ったじゅうねんをからませて食べる。

(記・石附 恵理子)  
(写真提供・石原 勝正)